



鹿島

戰記

後編壹号

加賀吉板

永島福太郎録

10

15

20

25

30



永島福太郎録  
永島子孟齋畫

繪本 鹿兒島戰記

東京書肆

青盛堂版

新政大總督征討大元帥西郷隆盛果陣

鹿兒島戰記後編

第一号

斯説も鹿

兒島戦記

一度肥後

熊本城不取つめ昏

夜砲声の止時多く中にも

田原坂の最も南の関より進撃手の官軍熊本への通路

みそ此所を抜ざれば連絡のつじはくく是非とも此所と落すと

日々大兵を以て攻めせざるが薩兵も是をばめのと教多の砲をい

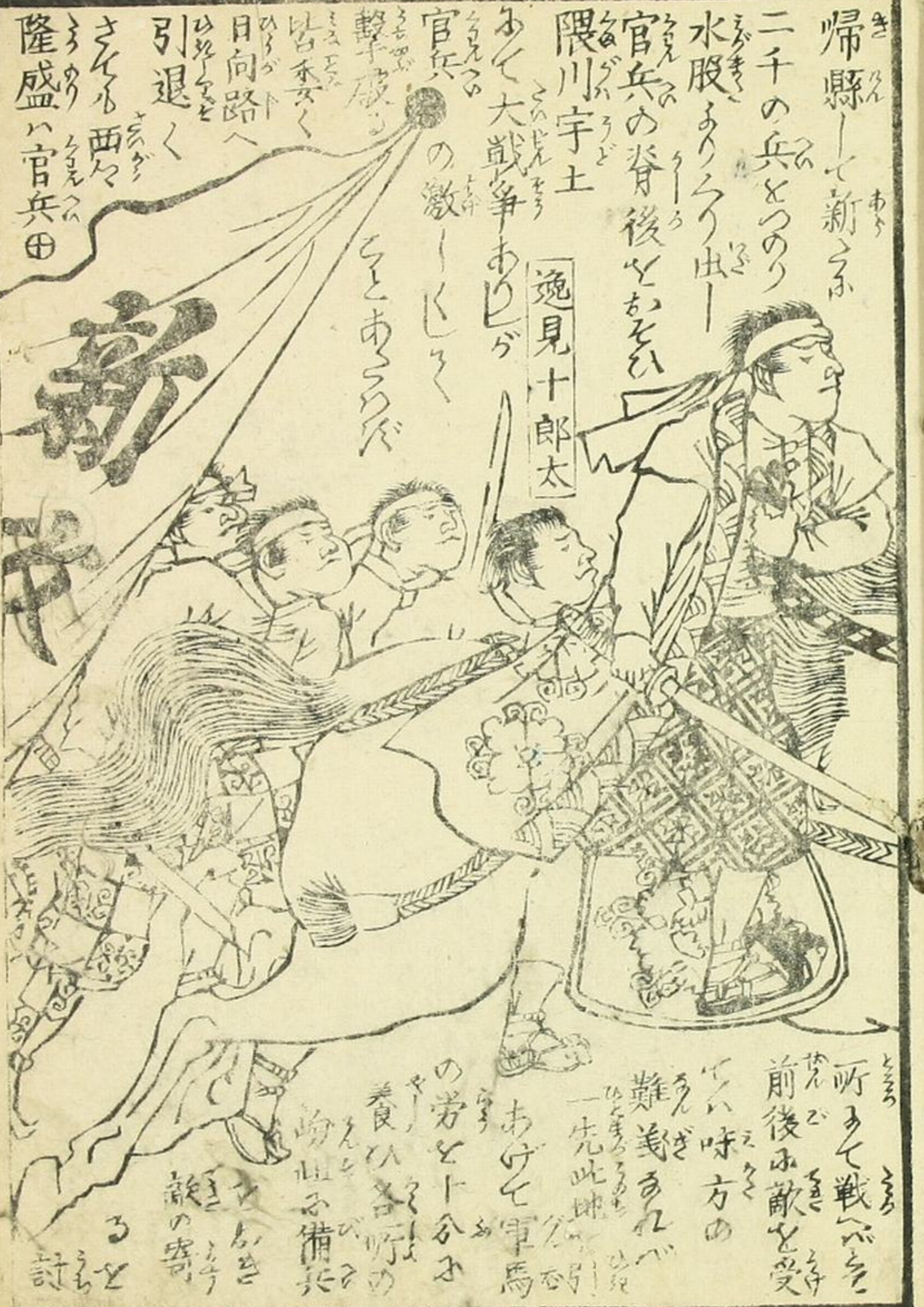
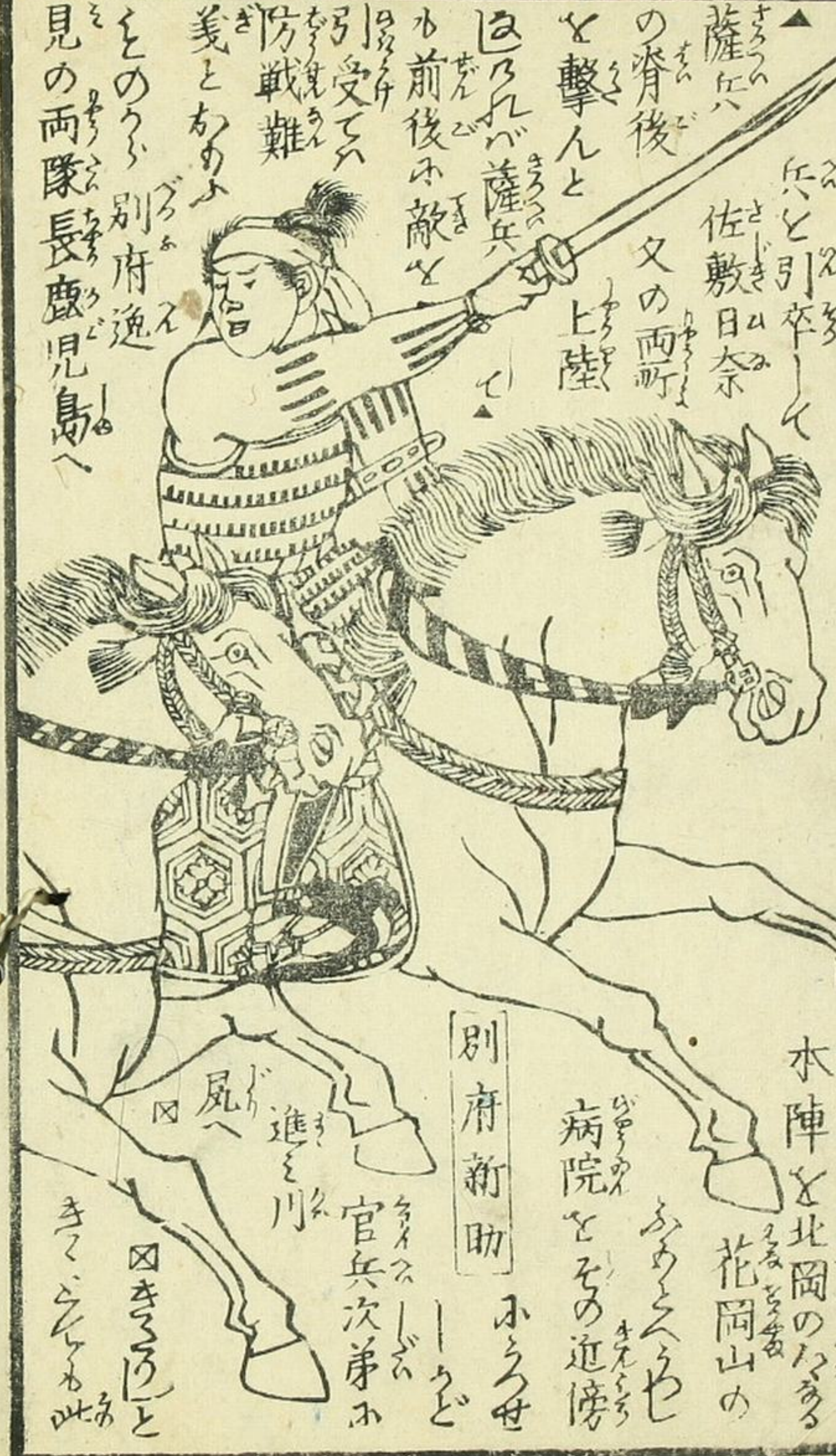


鹿兒島戦記後編一

48-7897



築て防戦すや何時落へまきとるるをさるるを  
 茲小田川路をせしめ又日將校方救千の

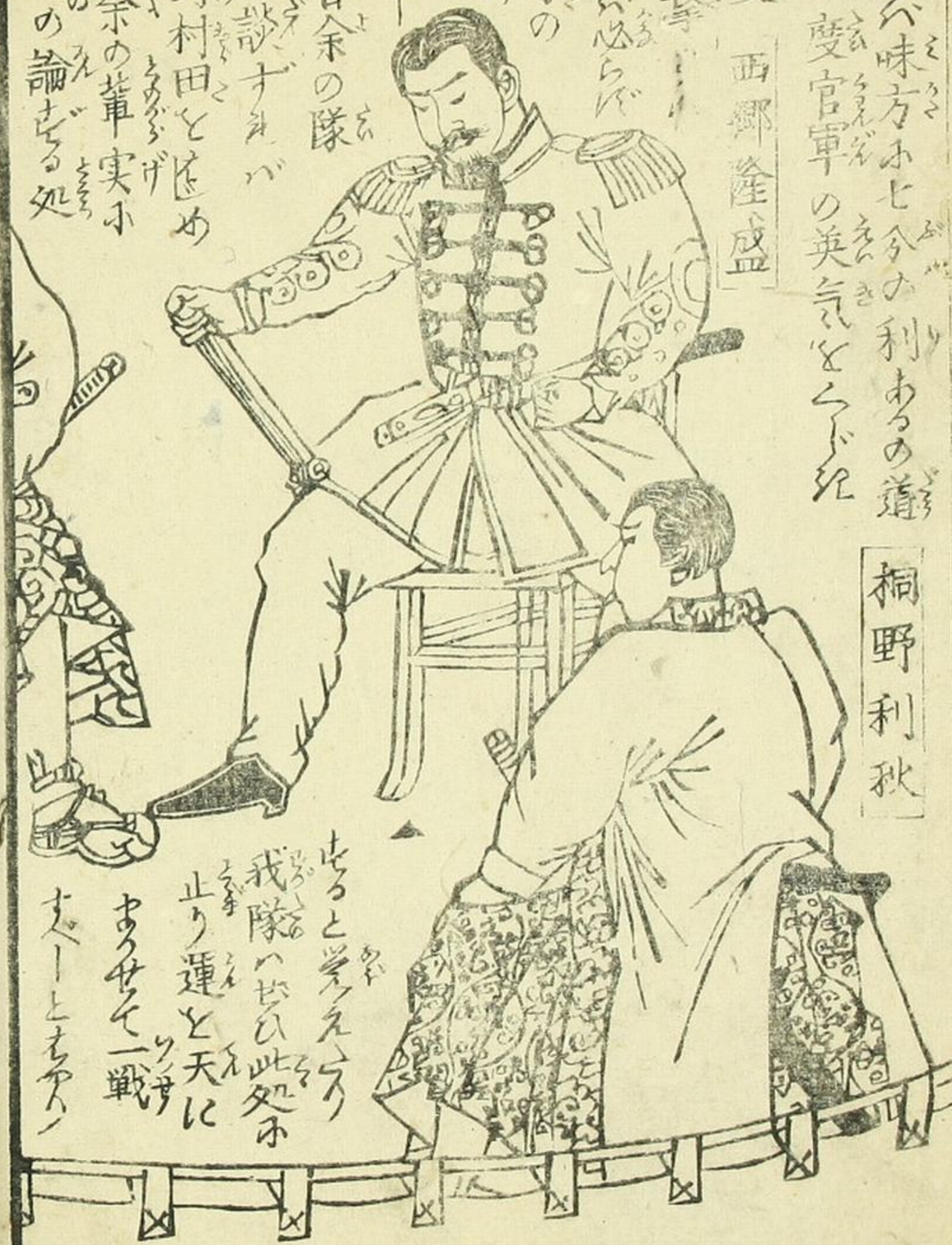




破ら味方小七分の利あるの道  
理下雙官軍の英氣とく下死

再度 西郷隆盛

勝利 味方の  
と自余の隊  
長小談すえい  
桐野村田とせめ  
その余の輩実小  
元帥の論する処



桐野利秋

此と云えん  
我隊へ此処不  
止り運と天に  
あせそ一戦  
志一と云ん

其用意  
とま中  
に池辺吉十郎と

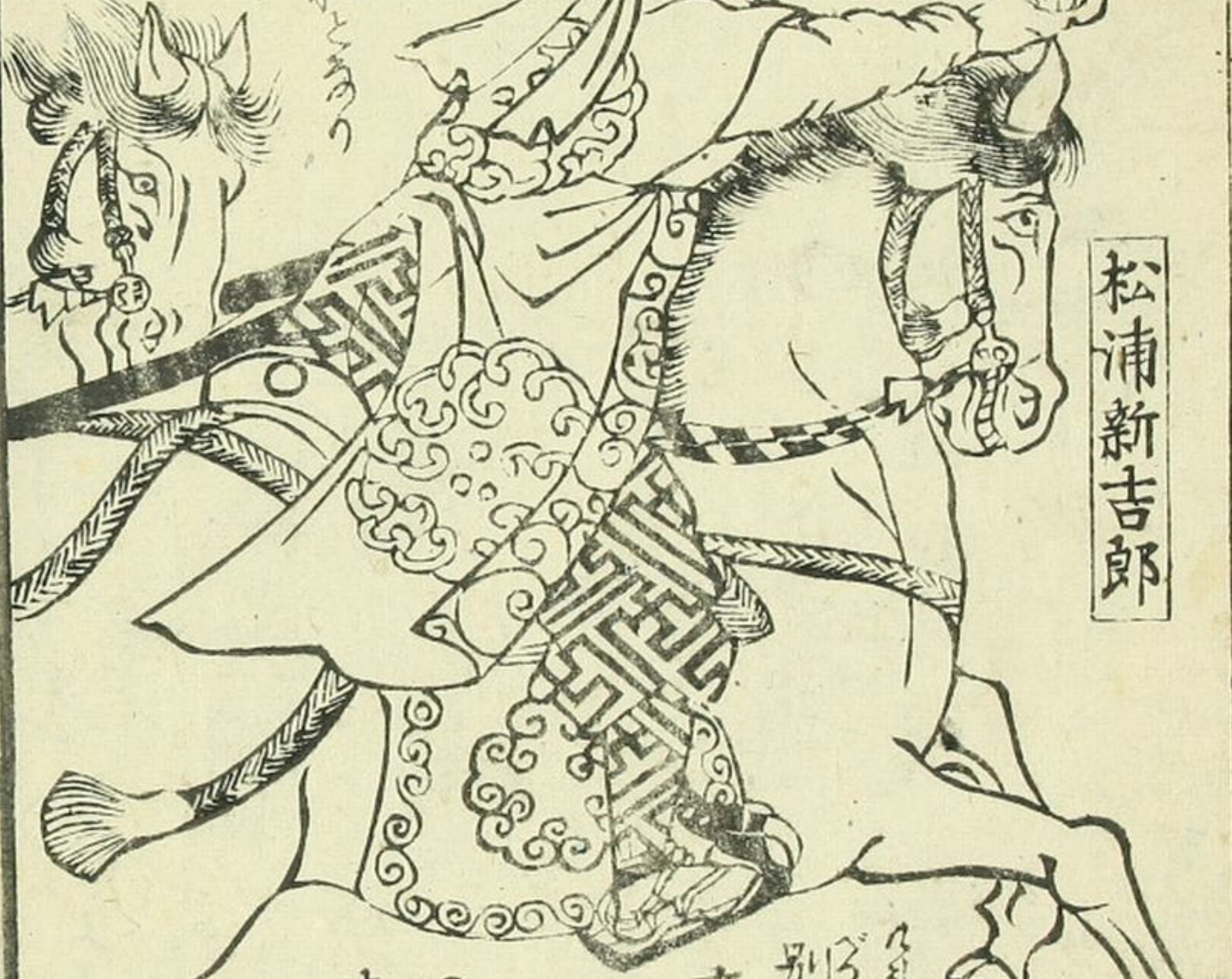
このの此言禁小  
従がら我輩元來此隊へ如は  
る國の為小死を同らせんと  
誓ひしとあり假令此地小命  
と殺らんと一旦許先とまぐ  
池辺吉十郎  
是非有無の  
一戦多く引揚るその時の官軍の多勢小  
恐を潰散せしと笑と多し武士さるりの耻辱之  
身内心不恥ととて死とらさうて外支度



激論  
小西のへとれと  
村田新八



破牙の論が  
野らんとに  
聞ゆと野猪  
武者のあま  
真の勇士の好  
む処不非バ  
と諭せと  
あらく兼  
伏るるも是  
非なくニ  
西ののの委  
大津一引あ  
池辺の勢



松浦新吉郎

又探  
注進あり  
四月十日の早天  
より舟川一取  
つめ烈しく砲撃  
せしり待まら  
なる此所の隊長  
松浦新吉郎  
緒方夫門

二千余人  
舟矢部  
緒方夫門  
▲木山ホの  
各所へ兵  
と別砲  
墨と築き  
あつた戦争の  
用 福田抱一  
意とあす此  
官軍の又



福田抱一

▲号令の剣とひら  
うすと等しく筒  
さ死をりて発砲  
は双方激しく打合  
弾丸さあつた雨の  
大砲の玉左右に飛走  
砲声山河あひひ煙



空天の漲り暗々冥々として物凄く  
互いに勝負も見えざるなりつゝの  
間ふら池辺の一隊寄子の脊後へまう  
相図の号砲せくと其まゝ四五十挺の  
筒先並へ一時お打出す弾丸煙りはもれ  
猛き巡査隊も小勢といひ不意とこれ  
を以て負ふもの多く正面より激敷撃と  
池部吉十郎

田川路少将  
一大隊を  
率ひて  
舟の職  
を攻撃

三浦野津  
の両少将  
各大隊と卒  
一矢部木山  
進撃一四廿日  
の拂曉より各  
兵を



は漸々備へ  
て立ちあへ  
脊後の  
敵を  
破り鹿瀬川堤へ  
引あけり  
宇土熊本の両所へ報知  
有ればはにさき  
敵のあまひ  
なる此より大軍  
をむけ口一卒よ  
おやどり先途  
の耻辱と  
まてうんと

三浦野津  
の率ひ別働  
隊へ

舟の職  
を攻撃

三浦野津  
の率ひ別働  
隊へ

舟の職  
を攻撃





終日砲戦

及

ひるが勝敗さうに

夜ふ入り敵の砲声

次第小遠くまじく

川路陸軍少将

川路少将

川路少将

馬足



向ひの

伺ひ敵

退きつり各々

川をさへ

下知め

川をさへ

兼とつり

両少将

あつた

守兵とあれ一同  
御舟小集合あり

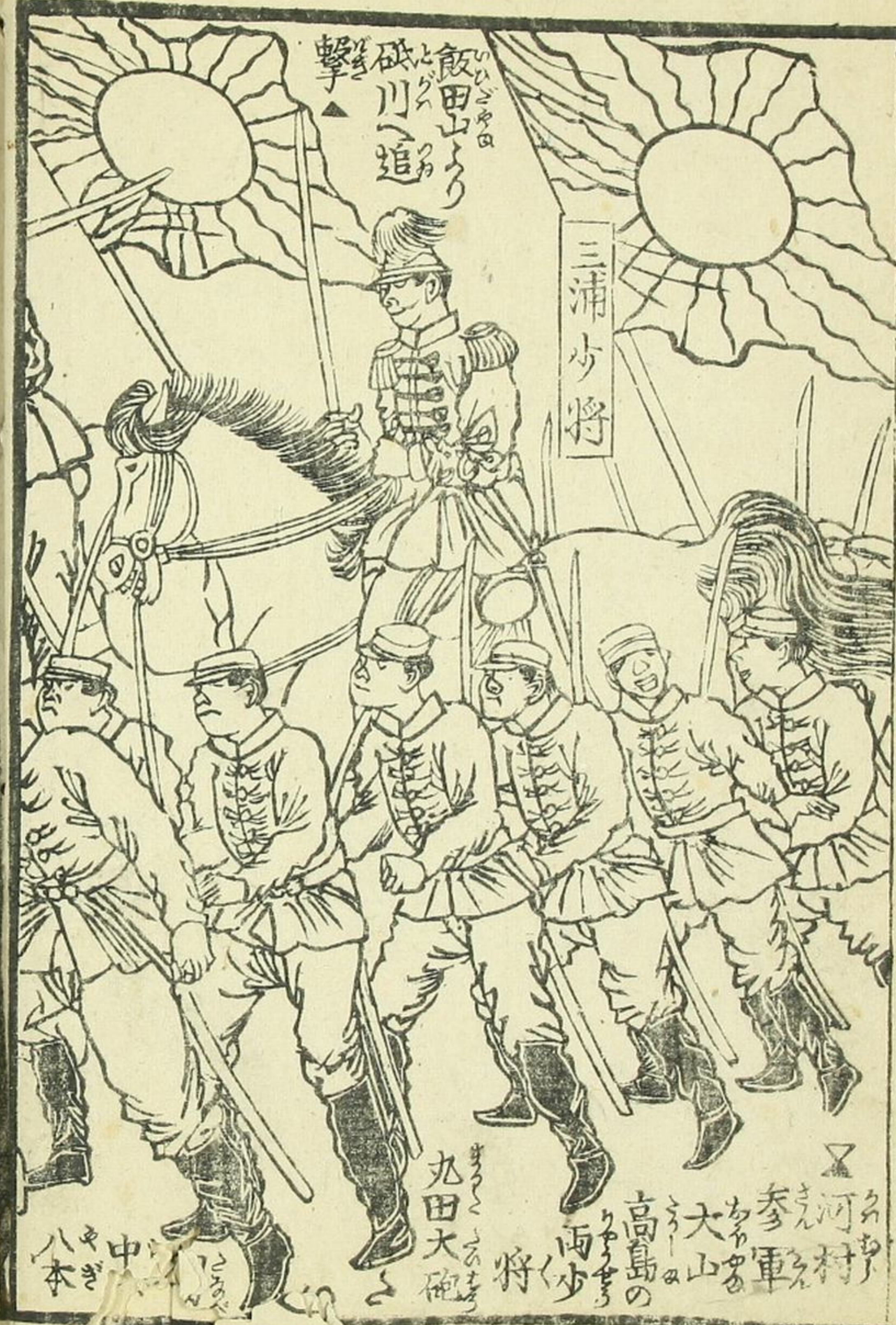
山小敵の残兵

物軍直よ

進なき







唐己馬

唐己馬

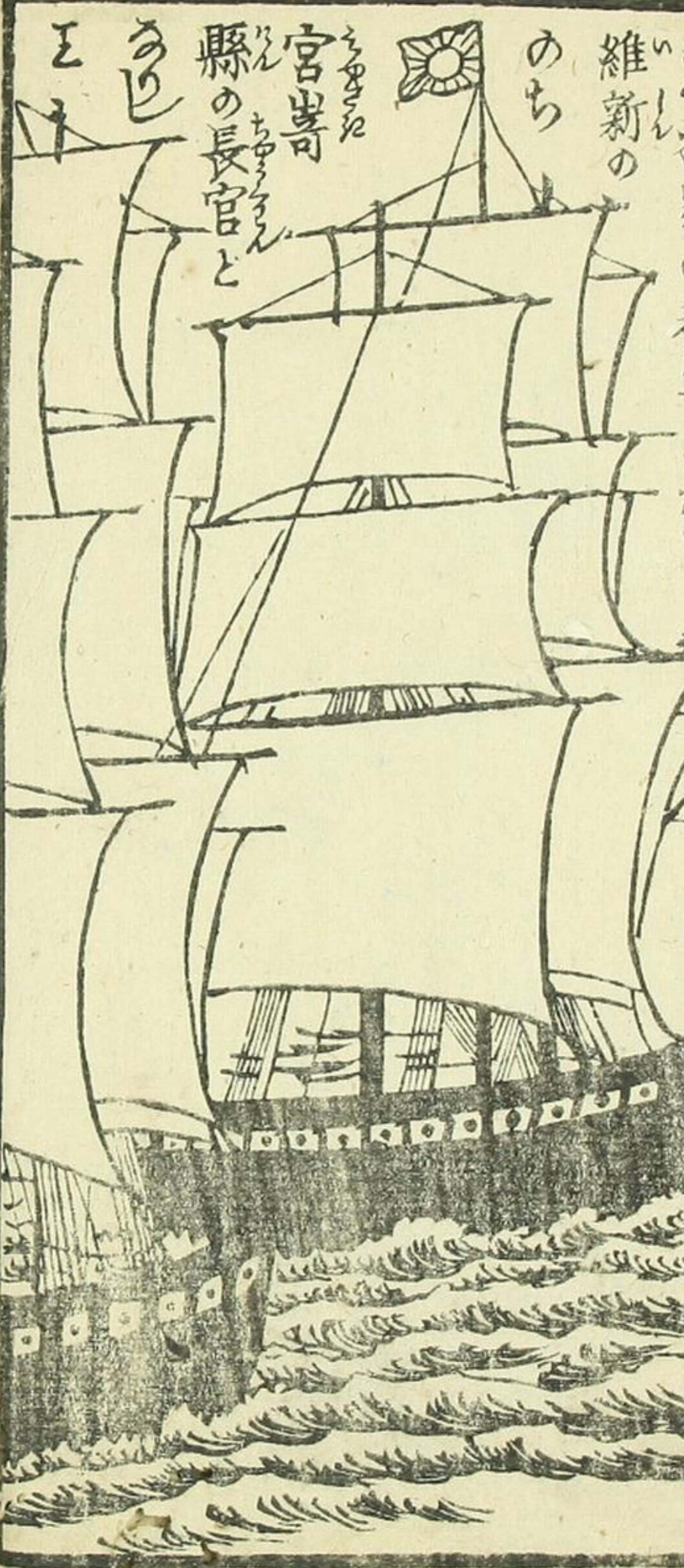


薩軍の内々桂四郎

と云ふのあり前名衛門と  
号し旧藩の頃三家と稱せ  
られ島津下総の三男  
あて桂家の養子とあり

維新の  
のち

宮崎  
縣の長官と



官軍  
鹿兒島へ  
出帆す



あり  
その後  
鹿兒島  
縣令に任せ

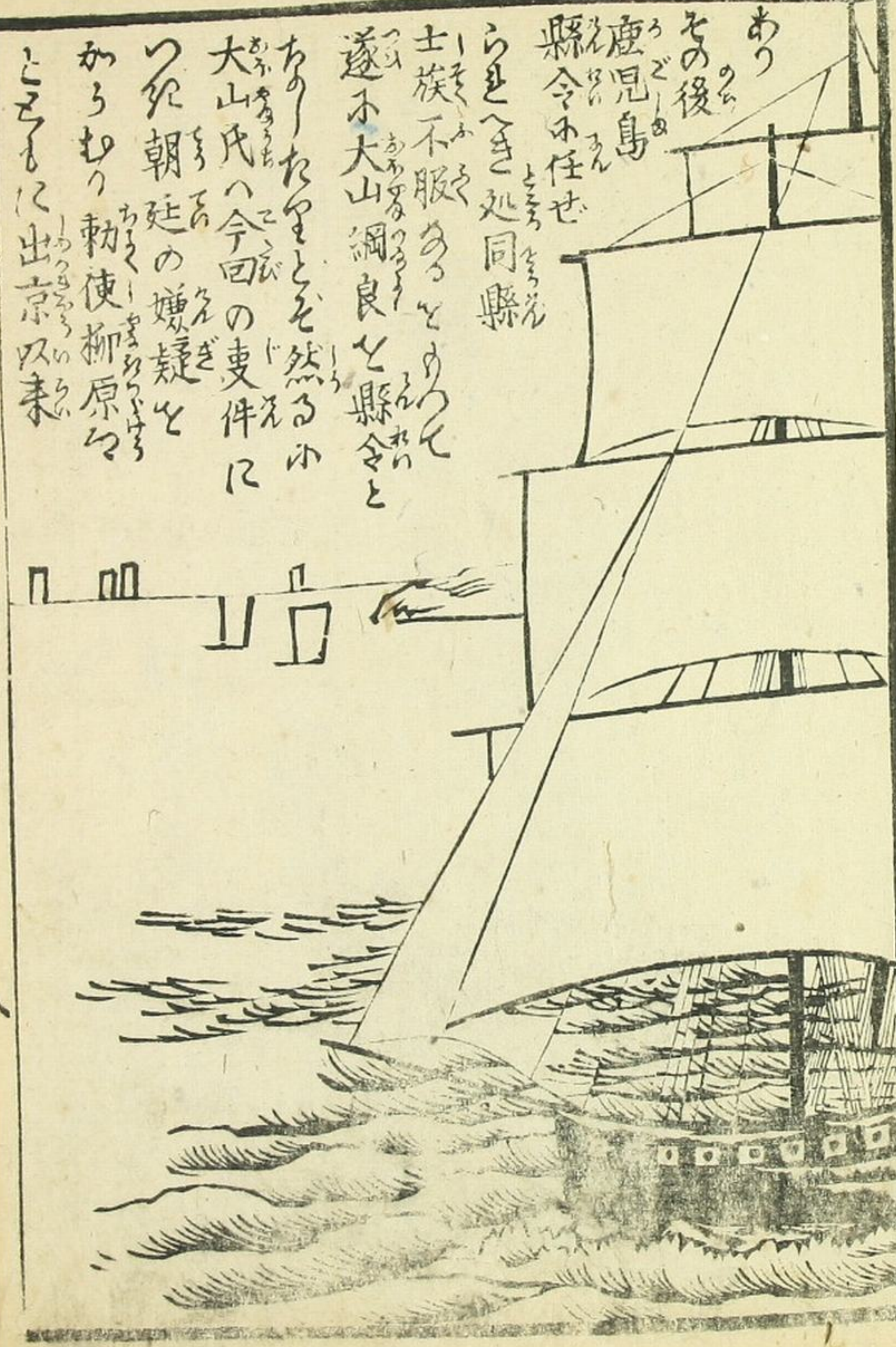
らとへき処同縣

士族不服あるとめりて  
遂に大山綱良を縣令と

ありたるとを然る小  
大山氏へ今回の事件に

つた朝廷の嫌疑を  
からむり勅使柳原の

ところに出京以來



五三ヨシ



鹿島戦記後編

四郎はつらつと縣令と偽稱して

暴威をふるひ金穀をのり

桂 衛門

各町の戦場にて

激戦するはあり

人民を脅迫して新兵を

島の戦争

つゆり日々肥後路へ往復して

八代

官軍大敗味方大勝利

ありと早加馬を籠



せしといふ

又桂四郎の

争田尻勢とのり

かの薩軍の小荷駄方の

長をつらめ四郎のせふと神九郎の小隊長とあり

鹿島戦記後編第壹号終

追て出板仕

010190507993



